

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 78 号(2022 年 11 月 7 日)

LET 九州・沖縄支部事務局発行

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1
 熊本学園大学 研究棟 302 号
 林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)
 E-mail: secretariat@j-LET-ko.org
 編集: 林千晶・竹野茂・事務局

November 2022 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 78

Table of Contents

・第 49 回 (2022 年度) 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会報告 (佐賀大学 佐々木有紀)	1 頁
・2022 年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部総会報告 (九州・沖縄支部長 長加奈子)	2 頁
・外国語教育メディア学会第 61 回 (2022 年) 度全国研究大会報告 (宮崎公立大学 竹野茂)	3 頁
・2022 年度外国語教育メディア学会理事会報告 (九州・沖縄支部副支部長 植田正暢)	5 頁
・2022-2023 年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部役員	7 頁
・事務局からのお知らせ	9 頁
・編集後記	10 頁

第 49 回(2022 年度)外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会報告

佐々木有紀 (佐賀大学)

2022 年 6 月 25 日 (土)、LET 九州・沖縄支部第 49 回支部研究大会 (大分大学本部) が開催されました。九州・沖縄支部の支部研究大会は、2019 年 6 月 1 日 (土) に熊本大学で開催された第 48 回大会以来、3 年ぶりの開催となりました。これは、

2019 年 12 月に端を発する新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で、2020 年に九州・沖縄支部で予定されていた全国研究大会が 1 年間延期されて 2021 年の開催となり、本来 2021 年に開催されるはずだった支部研究大会も開催時期が

1年ずれてしまったためでした。

2021年の後半は少し感染状況が落ち着いた様子だったため、長支部長と麻生大会実行委員長をはじめとする大会実行委員会では、対面での大会開催を目指していましたが、2022年に猛威を振るい始めたオミクロン株の流行による感染第6波と大会時期が重なってしまい、最終的には大阪大学を大会本部とするオンライン開催となりました。しかし、大会の運営については、2021年に全国研究大会をオンラインで運営した経験が生かされ、大会プログラムが非常にスムーズに進行され、講師や発表者の先生方や参加者の皆様も安心してストレスなく参加できる大会だったのではないのでしょうか。さらに、他支部会員の皆様や非会員の方が気軽に参加できるようになったこともオンライン開催の利点であったと思います。

また、九州・沖縄支部研究大会においては、英語の授業実践に役立つワークショップが毎回のプログラムの目玉の一つにな

っていますが、今回のワークショップ、相原 勝斗志先生（長崎県立佐世保高等学校）の「一人一台端末を活用した授業実践—Microsoft社のTeamsを用いた音読活動とスペリングコンテスト」は、コロナ禍で急速に普及が進んだ「外国語教育メディア」について今まさに必要な知識を学べる時宜を得た素晴らしい企画でした。研究発表・シンポジウム・講演もそれぞれ英語教育の実践に基づき、教員としての在り方や新しい教え方について考察させられる内容で、本当に多くの新しい知見をいただくことができました。

LET九州・沖縄支部第49回支部研究大会は、オンラインで多くの情報を共有できた充実した大会で、参加できたことを心から感謝しています。この2年間で学んだICTスキルを大切にしつつ、でも、次回は、対面開催の支部研究大会に参加して、直接、人に会って学べる素晴らしさを皆様と共有できるようになることを願っています。

2022年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部総会報告

LET九州・沖縄支部長 長 加奈子（福岡大学）

第49回支部研究大会がオンライン開催となったことを受け、2021年度に引き続き、2022年度の支部総会も書面総会（郵送による投票）となりました。ご協力いただきました会員の皆様には、あらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。以下、総会の報告をさせていただきますが、資料は既にメールにて送信済みでございますので、省略させていただきます。

資料送信（メール）：2022年7月8日（金）
投票受付期間：2022年7月13日（水）
消印有効

I. 議事

第1号議案：2021年度事業報告・決算・監査報告について 2021年度支部事業として、以下のように報告され承認されました。

1)2021 年度事業報告(総会資料 pp. 1-2)
2021 年度支部決算報告書が報告され、また併せて監査の報告がなされ承認されました。

2)2021 年度決算報告 (総会資料 p. 3)

3)2021 年度監査報告 (総会資料 p. 4)

第 2 号議案：2022 年度事業計画・予算について 2022 年度支部事業計画案が以下のように提案され、承認されました。

1)2022 年度事業計画(総会資料 pp. 5-6)
2022 年度支部予算案が提案され、承認されました。

2)2022 年度予算 (総会資料 p. 7)

II. 報告

1. 2023 年度支部研究大会開催校について (総会資料 p. 8)

第 50 回支部研究大会は、福岡大学(実行委員長：大津敦史先生 (福岡大学))にて開催予定であることが報告されました。新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みつつ、対面形式で実施する方向で進めていく予定です。開催日時等については、2022 年度第 2 回支部運営委員会で協議を行い、その後、支部会員へ報告することとなっております。

2. 2022-23 年度支部役員

既にメール稟議によりご承認いただいております 2022-23 年度支部役員について、報告されました。

以上

外国語教育メディア学会第 61 回(2022 年)度全国研究大会報告

竹野 茂(宮崎公立大学)

今年度の全国研究大会は関西大学、名部井敏代大会会長、近畿大学、菅井康祐大会実行委員長を中心とする LET 関西支部のホストによるもので、昨年度に引き続きオンラインでの開催になりました。「外国語教育の周辺技術と今後の可能性」という大会テーマで、8 月 9 日から 11 日までの3日間開催されました。LET60の時のオンデマンドでの発表提示+オンラインでの Q&A 方式とは異なり、全てライブでの発表で構成されておりました。参加者・出展事業者との交流スペースとして、昨年度と同じ oVice が用いられておりました。

8 月 10 日のプログラムは、学会会長森田彰先生の開会挨拶で始まり、全体の構成は、

基調講演が2、全体シンポジウム1、研究発表・実践報告31でした。この日は、研究発表に続き、東京大学、Tom Gally 先生による基調講演「激動する世界と英語教育」がありました。今日の英語教育を取り巻く動きについて振り返られ、今後英語教育の進む方向性について語っておられました。特に、提案として、「古いバズワードや前提に囚われないで、激動する世界に相応しい外国語教育政策の策定について広く活発的に議論して、その実施に向けて活動してください。」という言葉で締めくくられました。

8 月 11 日のプログラムは、立命館大学、谷口忠大先生による基調講演「記号創発ロボティクスとマルチモーダル感覚情報に基づ

く言語獲得～実世界人工知能に学ぶ言葉の意味の構成的理解～」から始まりました。一言で言えば AI のお話ですが、かなり深い示唆に富んだ内容でした。大変興味をそえられる内容でしたが、またそれは私にとっては大変難しいものでもありました。英語教育に限らず言語教育・言語習得にとって、これから機械翻訳をはじめ AI 技術は否応なく浸透していき、今後教育者としてどのように AI と向き合っていくのか、考えさせられました。

研究発表・実践報告を挟んで、「外国語教育の周辺技術と今後の可能性」と題するシンポジウムが最後に用意されていました。トピック 1 として立教大学、山田優先生による機械翻訳のお話、トピック 2 として早稲田大学、近藤悠介先生、千葉大学・理化学研究所、石井雄隆先生による自動採点のお話、トピック 3 として大阪工業大学、矢野浩二朗先生による VR のお話、そしてラップアップとして基調講演をされた谷口先生によるコメントがありました。その後ブレイクアウトセッションで、関心のある登壇者との議論を深める時間がありました。このシンポジウムの議論も私には非常に難しいものでしたが、今後言語教育に携わるものにとって避けられないものであることは理解できました。消極的にかかわって AI 技術に振り回されるのではなく、積極的に AI 技術をどう利用するかを考える必要があると感じました。

日にちは前後しますが、本編の研究大会に先立ち 8 月 9 日に、6 つのワークショップ (WS) が用意されていました。私は「ベイズ統計超入門」「英語音読におけるイントネーションの基本的選択肢」「探究時代の語学教育—電話研が見据える新たな 4 技能とは—」の 3 つのプログラムに参加しました。どの WS も大変興味のあるものでしたが、特に、ベイズ統計については今後の皆様の研究に影響があ

るかと思いますので少し述べてみたいと思います。ベイズ統計の採用に関して、**Proceedings** の記述を引用すると「2016 年に、心理・教育統計でよく使われる p 値への訣別を、**American Statistical Association** が推奨したことに起因しています。それが何を意味するのかというと「最近の一連の流れは、p 値と、それに代表される頻度論の統計の使い方や解釈のしかたに問題がある、と指摘しているように思えます。つまり、 $p < .05$ という棄却値をもってすべてに白黒をつけ、結果に『意味があった』『意味がなかった』と主張するような慣行が、学問を歪めていることを憂慮している (**Proceedings** より)」という見方からベイズ統計が脚光を浴びているということです。p 値だけを拠り所にするのではなく、多様な指標を使って結果の解釈を行っていくツールとして関心が高まったようです。ワークショップでは、ベイズ統計の基本的な原理が説明されました。p 値以外のベイズファクタを扱える便利なフリーソフトウェア **JASP** を用いたサンプルの簡単な解析を行いました。**JASP** を使用してみて、非常に便利なソフトウェアであると思いました。ベイズ統計を使ってより精度の高いデータ分析を目指さなければならないと感じました。

以上が、3 日間の LET 全国研究大会概観になります。基調講演、シンポジウムともピーク時には 200 名に迫る参加者がありました。特に、AI 技術に対する関心度が高かったことを示していると思います。

最終日、閉会行事では次年度全国研究大会ホスト支部を代表して、東洋学園大学、下山幸成先生より挨拶があり、盛会のうちに大会は終了しました。オンラインということもあり、交流スペースはあるとはいえ、恒例の懇親会が開けないのは少し残念な思いをしたのは私だけではないと思います。

2022 年度外国語教育メディア学会理事会報告

副支部長 植田 正暢 (北九州市立大学)

2022 年 8 月 27 日にオンラインで理事会が開催されました。会長 森田彰先生からの挨拶で会が始まり、その後、理事会内規に則り、次年度全国研究大会担当支部である関東支部支部長 下山幸成先生が議長として選出され、議事が進められました。以下、審議事項と報告事項について重要なものを取りあげてご報告いたします。以下の見出しの番号は実際の議案番号とは一致しませんので、ご了承ください。

<審議事項>

1) 2021 年度本部事業報告・決算報告および 2022 年度本部事業計画・予算(案)

千葉本部事務局長より報告・説明があり、審議の結果、承認された。なお、昨年度予算からの大きな変更点として「事務費・業務委託費等」に 50 万円が計上されており、森田会長より、この予算によって Scopus 登録への作業を本格化させる予定であることが伝えられた。具体的には、英文規程等の作成や必要なシステム等の改善を進めていく。数年をかけて準備することになり、各支部に継続的な支援が要請された。

2) 2023 年度第 62 回全国研究大会の開催について

下山関東支部長より、資料に基づき 2023 年度第 62 回研究大会について説明があり、審議の結果、以下が承認された。

- 2023 年 8 月 8 日(火)～10 日(木)に早稲田大学早稲田キャンパスで開催する予定である。

- 大会開催方法は対面とする。ただし、対面のみの形式ではなく、何らかの形でオンラインの要素を組み込むことについて大会実行員会で検討する。
 - 大会参加費は一般会員 3,000 円とする。学生会員、非会員の参加費およびワークショップの受講費については、一般会員の参加費を基準にして、今後大会実行委員会で検討し、後日理事会に提案することとする。なお、3,000 円の参加費は第 62 回大会のみに適用する。
 - プログラム、要項などの印刷物については、印刷せず pdf での配布のみとする。この対応は試行的なものであり、今後の全国研究大会においても恒久的に行うかどうかについては、会長・副会長会議等で引き続き検討することとする。
 - 理事会の日時については、慣例的にワークショップと重なる時間帯に設定されているが、第 62 回大会では本部事務局と大会実行員会で重ならないよう調整を図ることとする。
- #### 3) 2022 年度外国語教育メディア学会 (LET) 学会賞について

はじめに千葉事務局長より、2021 年度学会賞選考に関して審査対象となる年度について過誤があったことと今後の対応策について説明があった。対応策として未審査となった年度の論文を今年度審査し

た上で、再発防止のために、1) 本部事務局から機関誌事務局に依頼する際は、資料に対象となる機関誌の号と発行年を明記すること、2) 機関誌事務局と本部事務局、学会賞選考委員会でやり取りするファイルには機関誌発行年が分かるファイル名を付けること、3) 学会賞選考委員会での審査は、ファイルではなく、J-STAGE に掲載された論文で行うこと、が示された。

以上の説明の後、古村学会賞選考委員長より、資料に基づき今年度の選考結果について報告があり、審議の結果、「該当者なし」という学会賞選考委員会の案が承認された。この結果に関連して、論文賞は機関誌編集委員会から挙げられることになっている優秀な論文から積極的に受賞者を選考した方が良いのではないかの意見が出された。この議論の中で、1) 学会内で論文賞の授与方針が明確になっていないこと、2) 年度により機関誌編集委員会から示される論文の優秀さの程度に差が出てしまう仕組みになっていること、3) 現在の「学会賞内規」に示された受賞論文決定手続きに従えば「該当なし」の場合もあり得ること、などが明らかになった。これらのことを踏まえ、本部事務局において、a) 論文賞の授与方針の明確化、b) 授与方針に基づいた選考プロセスの策定、c) 学会賞内規等の整備を行い、会長・副会長会議において検討を進めることとした。

4) 2022 年度 各支部の本部納入金額について

千葉事務局長より、資料に基づいて本年度の各支部から本部への納入金額が提示され、審議の結果、承認された。

<報告事項>

1) 本部報告

千葉事務局長より本部役員、正会員数、賛助会員、学会機関紙 59 号の発行について報告された。

2) 各種委員会報告

LET blog 編集委員会、国際交流委員会、学会賞選考委員会、機関紙編集委員会より順次、報告がなされた。この中で、国際交流委員会の小野委員長より、2025 年にハワイで開催される FLEAT VIII の準備が進行しており、公的資金確保のため森田会長が IALLT 会長と連名で書類を提出したという報告があった。

3) 各支部報告

各支部より 2021 年度支部事業報告・決算および 2022 年度支部事業計画・予算について報告があった。

4) 2021 年度（第 60 回）全国研究大会決算報告

植田 2021 年度（第 60 回）全国研究大会実行委員長より、資料を基に第 60 回大会の決算報告がなされた。

5) 2022 年度（第 61 回）全国研究大会アンケート結果について

菅井 2022 年度（第 61 回）全国研究大会実行委員長より、資料を基に第 61 回研究大会の参加者アンケート結果が報告された。実際の参加者のみの回答であることを考慮する必要があるが、満足度や開催方式等について概ね高い評価が得られている。記述回答についても全支部で共有し、次年度以降の研究大会開催に役立てることとした。

6) 2024 年度以降の全国大会開催予定について

千葉事務局長より、資料を基に 2023 年度～2028 年度までの全国研究大会担当支部が示された。なお九州・沖縄支部は 2027 年度（第 66 回大会）を担当することになる。

7) その他：昨年度総会における会員からの要望について

千葉事務局長より、昨年度の総会でシニア会員創設の要望があったことが報告された。支部から特段の反対はなかったが、森田会長より、会員資格全体の見直しの中で継続して検討したいとの表明があった。また、会員資格の検討とともに、学会の国

際化に向けた取り組みを進めていきたいとの表明があった。具体的には、1) 会員種別の見直し、2) 非会員の全国研究大会参加を可能にする制度の検討、3) 全国研究大会の正式名称（「LET 62」や「LET 2023」など）の検討、4) 機関誌の質的・量的向上策の検討、5) 国内関連団体との関係性の強化、などが含まれる。今後、会長・副会長会議や支部長連絡会で検討していくことになるので、各支部においても議論を行い、意見を挙げて欲しいとの要請があった。

以上

2022-2023 年度 外国語教育メディア学会 九州・沖縄支部役員

支部長

長 加奈子（福岡大学）

副支部長

植田正暢（北九州市立大学）

中島 亨（福岡教育大学）

事務局長

林 幸代（熊本学園大学）

理事

長 加奈子（福岡大学）

植田正暢（北九州市立大学）

中島 亨（福岡教育大学）

麻生雄治（大分大学）

支部幹事

佐々木有紀（佐賀大学）

綱 智子（長崎県立大学非常勤）

会計監査

川島嘉美（石川工業高等専門学校）

松崎 徹（筑紫女学園大学）

運営委員（50 音順）21 名

麻生雄治（大分大学）

石井和仁（福岡大学）

植田正暢（北九州市立大学）

大下晴美（大分大学）

大津敦史（福岡大学）

岡田美鈴（宇部工業高等専門学校）

奥田阿子（長崎大学）

佐々木有紀（佐賀大学）

島谷 浩（熊本大学大学院）

竹野 茂（宮崎公立大学）

竹安 大（福岡大学）

田上優子（福岡女子大学）

長 加奈子（福岡大学）

綱 智子（長崎県立大学非常勤）

Joseph Tomei（熊本学園大学）

中島 亨（福岡教育大学）
仲山雄二（熊本県立小川工業高等学校）
林 幸代（熊本学園大学）
林 千晶（福岡女学院大学）
古村由美子（名古屋外国語大学）
米岡ジュリ（熊本学園大学）

評議員（50 音順）28 名

（＊は運営委員を兼ねる）

麻生雄治＊（大分大学）
石井和仁＊（福岡大学）
植田正暢＊（北九州市立大学）
大下晴美＊（大分大学）
大藺修一（九州産業大学）
大津敦史＊（福岡大学）
岡田美鈴＊（宇部工業高等専門学校）
奥田阿子＊（長崎大学）
奥田裕司（福岡大学）
佐々木有紀＊（佐賀大学）
島谷 浩＊（熊本大学大学院）
竹野 茂＊（宮崎公立大学）
竹安 大＊（福岡大学）
田上優子＊（福岡女子大学）
長 加奈子＊（福岡大学）
綱 智子＊（長崎県立大学非常勤）
Joseph Tomei＊（熊本学園大学）
中島 亨＊（福岡教育大学）
中野秀子（北九州市立大学非常勤）
仲山雄二＊（熊本県立小川工業高等学校）
新田よしみ（福岡大学）
林 幸代＊（熊本学園大学）
林 千晶＊（福岡女学院大学）
古村由美子＊（名古屋外国語大学）
冬野美晴（九州大学）

山本佳代（宮崎大学）
雪丸尚美（北九州市立大学）
米岡ジュリ＊（熊本学園大学）

機関誌編集委員

島谷 浩（熊本大学大学院）
大下晴美（大分大学）
岡田美鈴（宇部工業高等専門学校）

国際交流委員

Joseph Tomei（熊本学園大学）

学会賞選考委員

古村由美子（名古屋外国語大学）

ブログ担当委員

麻生雄治（大分大学）
竹安 大（福岡大学）

支部紀要編集委員

中島 亨（福岡教育大学）
綱 智子（長崎県立大学非常勤）
奥田阿子（長崎大学）
田上優子（福岡女子大学）
山本佳代（宮崎大学）

支部学術賞選考委員

中島 亨（福岡教育大学）
石井和仁（福岡大学）

「支部だより」編集委員

竹野 茂（宮崎公立大学）
林 千晶（福岡女学院大学）

事務局からのお知らせ

【新会員(2022年10月20日現在)】

<正会員・個人会員>

隈上麻衣(長崎大学)

横田憲祐(長崎県立壱岐商業高等学校)

<正会員・学生会員>

神谷祥之介(福岡大学大学院)

郭 静姝(九州大学)

【2022年度ワークショップ】

今年度は2023年3月に開催予定です。

詳細が決定いたしましたら、メーリングリストや支部HPにてお知らせいたします。

【第50回支部研究大会】

日時: 2023年6月10日(土)

場所: 福岡大学

大会テーマ: Z世代のデジタルリテラシーを生かした外国語教育—ポストZ世代を視野に入れて—

詳細が決定いたしましたら、メーリングリストや支部HPにてお知らせいたします。

【第62回全国研究大会】

次年度(2023年度)のLET全国研究大会は関東支部担当で、以下の通り予定されています。

日時: 2023年8月8日~10日

場所: 早稲田大学早稲田キャンパス

対面形式での開催を目指しておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況などに応じ、開催形態等変更の予定がございます。詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

【会費納入のお願い】

2022年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されております。まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします(個人会員・団体会員は6,000円、学生会員は3,000円)。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部のHPより変更していただきますようお願い申し上げます。

【LETホームページ】

<LET本部> <http://www.j-let.org>

<LET九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江2丁目5-1研究棟302号

熊本学園大学

林幸代研究室内

編集後記

編集委員としての初仕事で、この 78 号の編集に関わらせていただきました。既にいくつかの反省すべき点があり、大変勉強になりました。原稿を依頼させていただいた先生方には、感謝の気持ちで一杯です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(千)

全国研究大会の記事を引き受けたのは良かったのですが、内容を思い出すのに苦労し原稿がなかなか書けずに日々悶々と過ごしておりました。ですが、今号の編集を全面的に林千晶先生にやっていただき大変助かりました。本当にありがとうございました。今回写真が用意できなかったのは残念です。(茂)